令和７年度号　発行者　社会福祉法人新見市社会福祉協議会

ふだんの
くらしを
しあわせに

ちょボラだより

新見市社会福祉協議会では学童期からのボランティア活動として、自分にもできるちょっとしたボランティア“ちょボラ”を推進しています。

今年度も、新見市内すべての小学校の対象学年において、３７６人の児童が”ちょボラ”に取り組みました。思いやりの心やボランティア意識をもって活動した「ちょボラノート」の記録を一部ご紹介いたします。

どんな“ちょボラ”があるのかを友達や家族と一緒に考えました！

きれいにする

- 歩道にあるゴミや落ち葉を拾って、ごみ箱へ捨てる。
- リサイクルできるものを集めて分別してから捨てる。

あつめる

- 募金に協力する。
- 牛乳パックやプラスチックを集める。
- フードドライブに協力する。

たすけあう

- 困っている人がいたら声をかける。
- 重い荷物を持っている人がいたら助ける。

ふれあう

- 近所のお年よりを気にかけたり、お話しに行ったりする。
- 元気なあいさつをして、笑顔を増やす。

こんな“ちょボラ”をしました

★ここでは紹介しきれない程の思いやりあふれた“ちょボラ”がたくさんありました★

登下校中にて

- 道に落ちていたごみを拾った。
- 落とし物を拾って交番に届けた。
- 倒れていた三角コーンを直した。
- 大きな声であいさつした。

地域にて

- みんなが使うバス停やみぞ掃除をした。
- お店で募金をした。
- クリーン作戦や防災訓練に参加した。

お店にて

- 店員さんに忘れ物があることを伝えた。
- セルフレジが分からなくて困っている人に使い方を教えた。
- 手がふさがってドアが開けられなくなっている人の手助けをした。

“ちょボラ”に取り組んだ感想

ぼくにも、地域のために何かできることがあることが分かりました。

人助けをすると、自分もうれしくなったし、相手の「ありがとう」の言葉でさらにうれしく感じました。

一人ひとりがちょボラに取り組めば、思いやりの気持ちがたくさん集まって、みんなが気持ち良くなることに気づきました。

食品ロスを減らすことや分別など、地域でできる身近なボランティア活動がとても良いと思いました。
できることは、日頃から、取り組みたいと思いました。

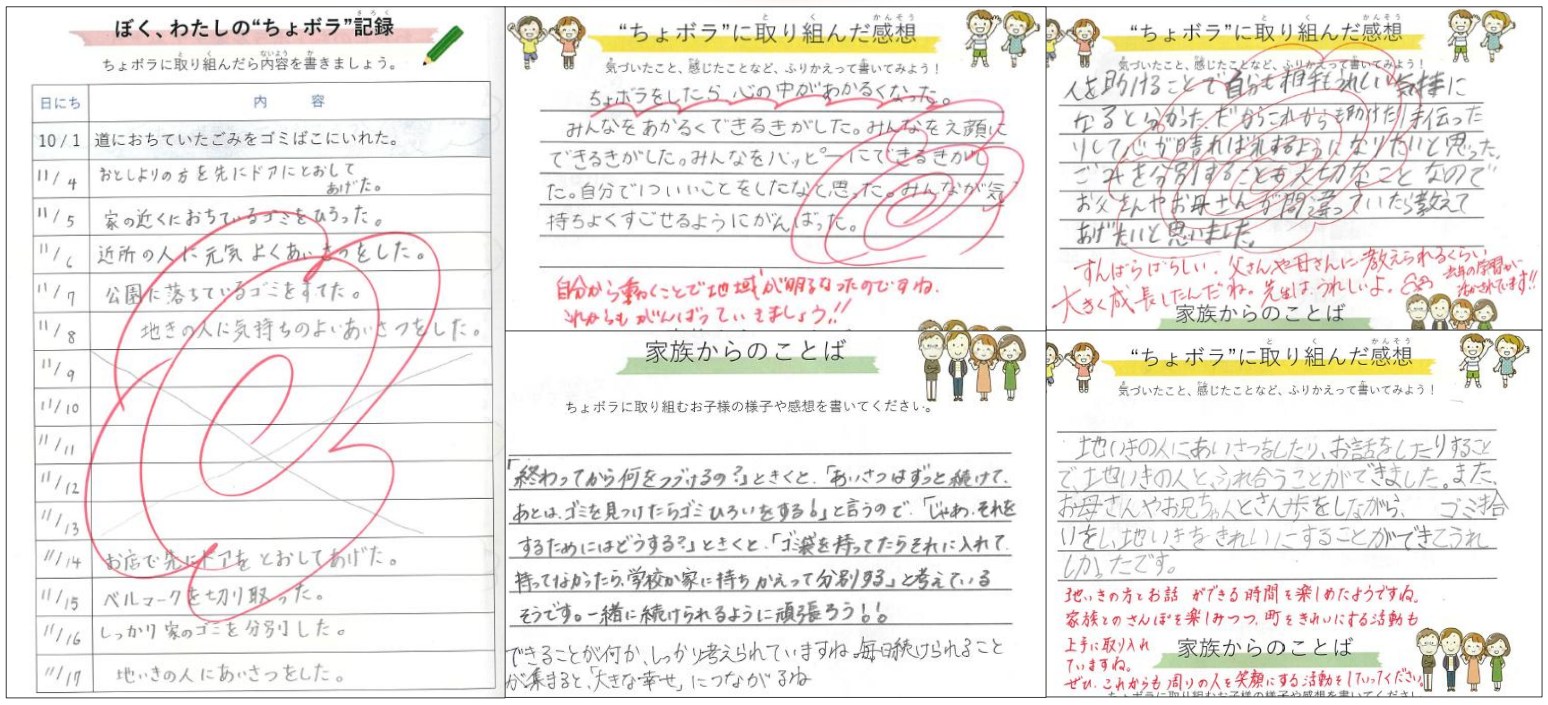
家族からのことば

「どんなちょボラができるかな」と一緒に話す時間も立派なちょボラだなと思いました。

家族と一緒に取り組む中で、ちょっとした心がけが地域のボランティアにつながることに気づき、自分にできるボランティアに取り組むことができました。

困っている人の気持ちを考えて行動できる姿が素晴らしいと思いました。

ちょボラを意識して、自分から進んで地区の掃除に参加してくれたことがうれしかったです。



あとがき

“ちょボラ”にご協力いただき、ありがとうございました。提出していただいたちょボラノートから、普段の生活の中で、自分にできる“ちょボラ”を見つけて意識しながら取り組んだ様子や、ご家族と話をしながら一緒に“ちょボラ”に取り組んでいる様子がうかがえ、この活動を通じて多くの人の思いやりの気持ちが育まれたように感じられました。この取り組みで気づいたことを大切に、地域の笑顔がさらに増えていくことを願って、新見市社会福祉協議会では、今後も“ちょボラ”の取り組みを推進してまいります。

この事業は「赤い羽根共同募金」の収益を財源に実施しています。